

Economic Indicators

発表日: 2022年3月4日(金)

主要経済指標予定(2022年3月7日~3月11日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(3月7日~3月11日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
3月7日 (月)	14:00 1月消費活動指数(旅行収支調整済) 実質季節調整済み(前月比)	—	—	—	+0.0%
3月8日 (火)	8:30 1月毎月勤労統計 名目賃金(前年比)	—	—	—	▲0.4%
	8:50 2月貸出・預金動向 国内銀行貸出残高(前年比)	—	—	—	+0.6%
	8:50 1月国際収支統計 経常収支(原数値、億円)	▲8,854	▲8,705	▲12,000~▲6,572	▲3,708
	14:00 1月景気動向指数・速報 CI一致指数(前月差)	▲0.1pt	▲0.2pt	▲1.5pt~+0.2pt	▲0.1pt
	CI先行指数(前月差)	▲0.6pt	▲1.0pt	▲2.7pt~▲0.5pt	+0.9pt
	14:00 2月景気ウォッチャー調査 現状判断 DI(季節調整値)	35.1pt	36.3pt	34.7pt~52.1pt	37.9pt
	先行き判断 DI(季節調整値)	39.2pt	41.9pt	39.2pt~47.5pt	42.5pt
3月9日 (水)	8:50 10-12月期 GDP2 次速報 実質 GDP 成長率(前期比)	+1.3%	+1.4%	+1.3%~+1.5%	+1.3%
	(同年率)	+5.3%	+5.7%	+5.3%~+6.3%	+5.4%
	名目 GDP 成長率(前期比)	+0.5%	+0.6%	+0.5%~+0.7%	+0.5%
	GDP デフレーター(前年比)	▲1.3%	▲1.3%	▲1.3%~▲1.3%	▲1.3%
	8:50 2月マネーストック M2(前年比)	+3.2%	+3.4%	+3.2%~+3.6%	+3.6%
	M3(前年比)	+3.1%	+3.2%	+3.1%~+3.6%	+3.3%
	広義流動性(前年比)	+4.4%	+4.5%	+4.4%~+4.8%	+4.6%
3月10日 (木)	8:50 2月企業物価指数 (前月比)	+0.8%	+0.6%	+0.2%~+0.8%	+0.6%
	(前年比)	+9.0%	+8.6%	+8.1%~+9.0%	+8.6%
	13:30 1月特定サービス産業動態統計調査				
3月11日 (金)	8:30 1月家計調査(二人以上の世帯) 実質消費支出・全世帯(前年比)	+2.3%	+3.6%	+0.1%~+6.3%	▲0.2%
	実質消費支出・勤労者世帯(前年比)	+2.6%	+3.6%	+2.5%~+8.2%	+2.2%
	8:30 1月家計消費単身モニター				
	8:30 1月家計消費状況調査				
	8:30 1月消費動向指数				

8:50	1-3 月期法人企業景気予測調査				
	景況判断BSI大企業製造業	—	—	—	+7.9
	全産業	—	—	—	+9.6

10-12 月期 GDP 2次速報・実質 GDP 成長率 **当社予想：前期比年率+5.3% 中央値：同+5.7%**

前期比年率+5.3%（前期比+1.3%）と、1次速報の前期比年率+5.4%（前期比+5.4%）からほぼ変化なしと予想。法人企業統計の結果を受けて設備投資が上方修正される一方、公共投資が下方修正されることで相殺される見込み。21年7-9月期の景気を下押しした①新型コロナウイルスの感染拡大、②自動車の大幅減産、が10-12月期にはともにいったん解消されていたことが、個人消費主導の高成長に繋がったとの構図は不変とみられ、景気認識にも変更はない。

（経済調査部長・主席エコノミスト：新家 義貴）

1 月国際収支・経常収支（原数値） **当社予想：▲8,854 億円 中央値：▲8,705 億円**

1月の経常収支（季節調整値）を+1,972億円と予想する。原油高を背景にした輸入の増加が続く一方、国内外での感染拡大により自動車を中心に輸出が再停滞したことで、貿易収支は大幅な赤字となる見込み。これを受けて、経常収支も黒字幅を大きく縮小させるだろう。先行きについては、ウクライナ情勢の悪化により原油高騰に拍車がかかっており、事態の收拾時期は極めて不透明感が強い状況が続いている。輸入が増加基調を続けることで、貿易赤字は当面続くとみられる。これにより、経常収支も低調な推移が続くだろう。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

1 月景気動向指数 CI 一致指数 / CI 先行指数 **当社予想：前月差▲0.1pt / ▲0.6pt 中央値：同▲0.2pt / ▲1.0pt**

CI 一致指数を前月差▲0.1ポイントと予想する。有効求人倍率や投資財出荷指数が押し上げる一方で、耐久消費財出荷指数、生産財出荷指数、鉱工業生産指数などが下押しする見込み。

（経済調査部長・主席エコノミスト：新家 義貴）

2 月景気ウォッチャー調査 現状判断 DI / 先行き判断 DI（季節調整値） **当社予想：35.1pt / 39.2pt 中央値：36.3pt / 41.9pt**

2月景気ウォッチャー調査の現状判断DIを35.1pt、先行き判断DIを39.2ptと予想する。2月は月中の国内新規感染者数が過去最大を記録し、外出自粛の動きが続いたことから、家計動向関連を中心に前月から低下が続くとみられる。先行き判断DIは、調査期間中も国内で深刻な感染状況が続いていたことに加えて、海外情勢の緊迫化が経営者心理を悪化させたことも予想され、前月から低下を見込む。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

2月企業物価指数・国内企業物価 当社予想：前年比+9.0% 中央値：同+8.6%

2月の国内企業物価を前月比+0.8%、前年比+9.0%と予想する。原油価格の上昇により石油・石炭製品、電気・ガス・水道が押し上げるだろう。先行きは、原油価格について、世界的な需給逼迫にウクライナ情勢の悪化が拍車をかけ、当面は上昇基調が続くとみられることから、石油・石炭製品を中心に前月比上昇が続くだろう。

(副主任エコノミスト：大柴 千智)

1月実質消費支出（二人以上の世帯、全世帯） 当社予想：前年比+2.3% 中央値：同+3.6%

1月の実質消費支出は、前月比▲4.8%の減少と予想。感染状況の急激な悪化に伴い、サービス消費を中心に再び下押し圧力が強まることが見込まれる。先行きについては、感染状況がピークをつけたことにより、徐々に回復することが見込まれる。もっとも、新規感染者数は依然高い水準にあり、まん延防止等重点措置等の経済活動への抑制の影響も残るため、個人消費の回復ペースは緩慢なものにとどまるだろう。

(主任エコノミスト：小池 理人)

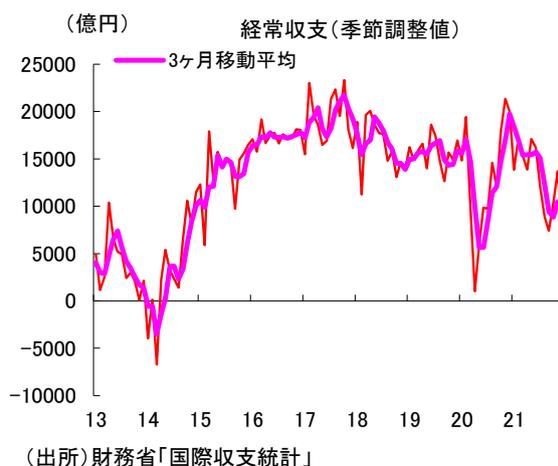
図表1

2021年10-12月期GDP予測

(%)	
実質GDP	1.3
(前期比年率)	5.3
内需寄与度	1.1
(うち民需)	1.3
(うち公需)	▲0.2
外需寄与度	0.2
民間最終消費支出	2.6
民間住宅	▲0.9
民間企業設備	0.8
民間在庫変動(寄与度)	▲0.1
政府最終消費支出	▲0.3
公的固定資本形成	▲4.0
財貨・サービスの輸出	1.0
財貨・サービスの輸入	▲0.3

※断りの無い場合、前期比(%)
 (出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

図表2



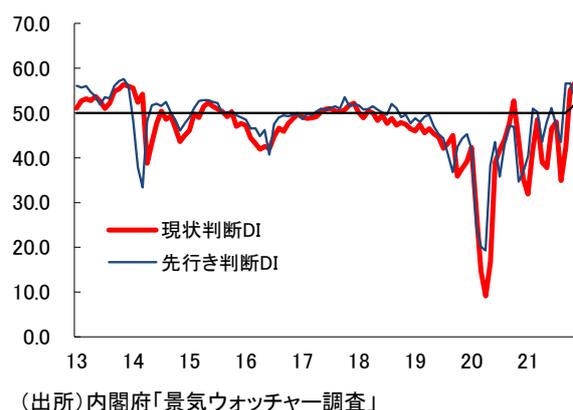
図表3

一致CI



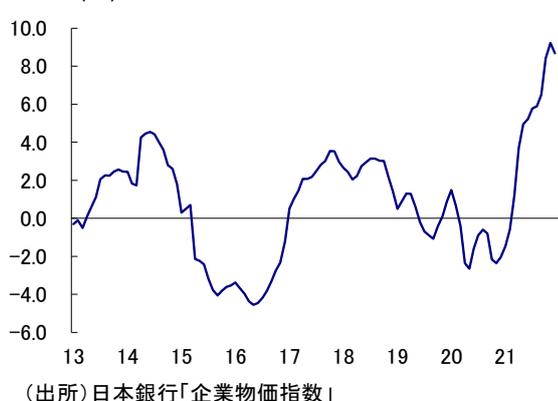
図表4

(DI) 景気ウォッチャー調査(季節調整値)



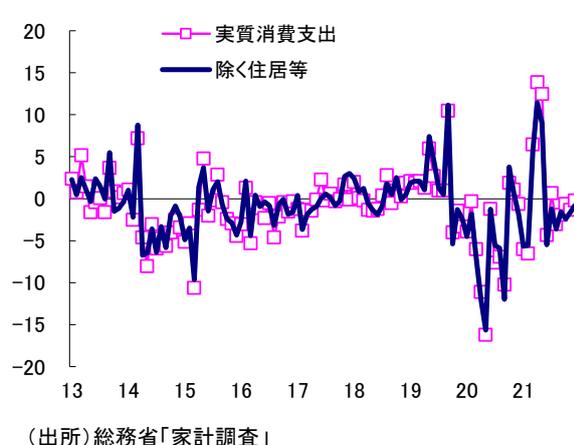
図表5

(%) 国内企業物価指数(前年比)



図表6

(%) 家計調査(実質消費支出・前年比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

